

# 本邦における 再発膠芽腫治療の実態調査

---

特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会理事会

# 方法

- 調査対象施設 旧日本脳神経外科学会A項施設384施設
- 調査期間 2011年10月19日から11月19日
- 調査方法 アンケート調査
- 調査対象症例 2009－2010年の2年間の再発膠芽腫

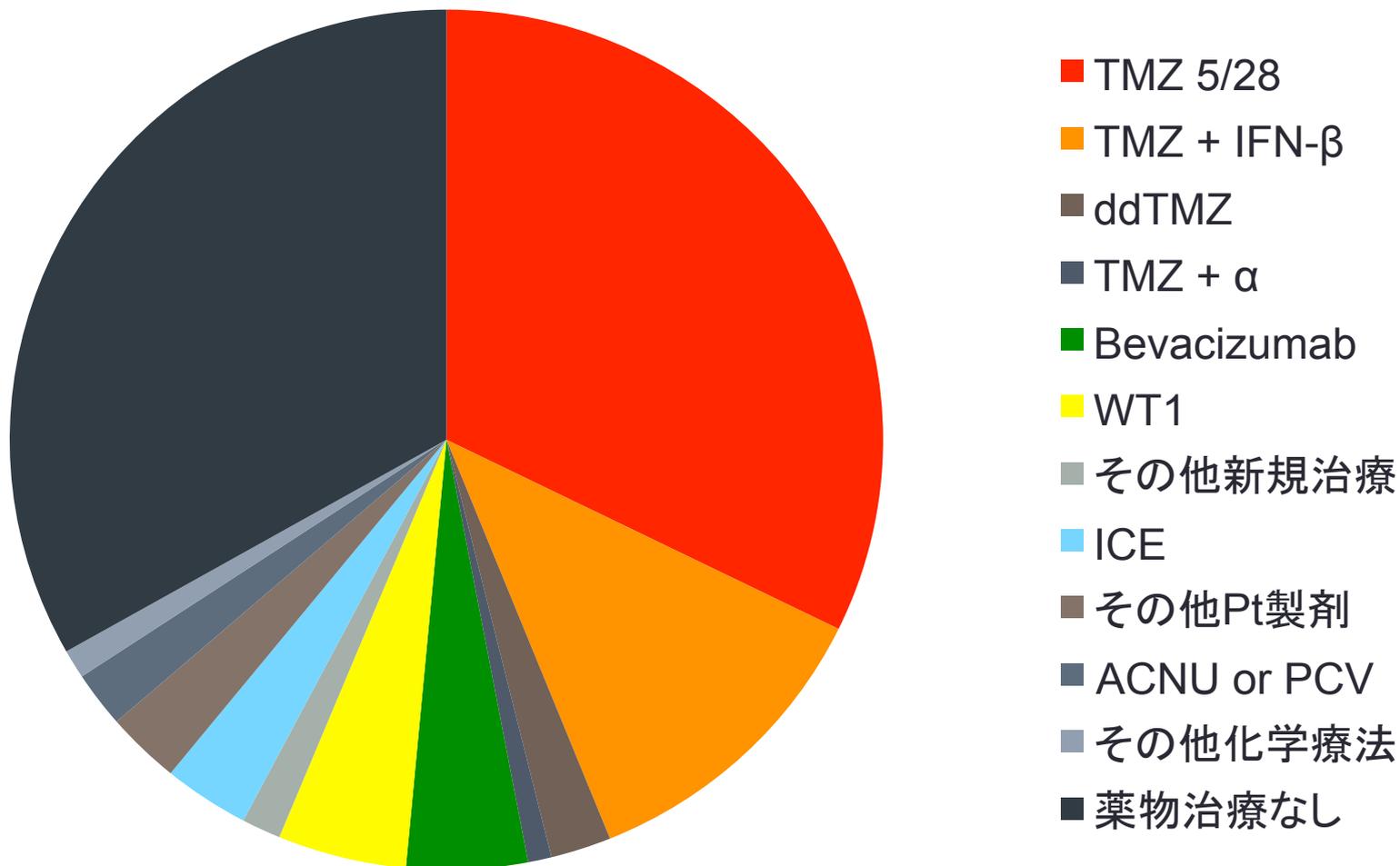
# 結果

- 回答率  $145/384 = 37.8\%$
- 再発症例経験あり 130施設
- 再発症例数 1,387症例
  
- 1,185症例(85.4%)が初期治療においてTMZを用いていた。

# 再発治療 130施設、1387症例

治療方法	施設数	症例数	
TMZ 5/28	83	446	48.2%
TMZ + IFN-b	38	161	17.4%
ddTMZ	10	31	3.5%
TMZ + $\alpha$	7	12	1.4%
Bevacizumab	21	62	6.7%
WT1	10	66	7.5%
その他新規治療	9	20	2.2%
ICE	14	44	5.0%
その他Pt製剤	8	38	4.3%
ACNU/PCV	9	29	3.1%
その他化学療法	6	16	1.7%
薬物治療あり		925	100%

- 1. TMZ中心の治療が治療例の70%
- 2. 無治療症例が33%



# 結論

- 全国384施設にアンケート調査を行い145施設37.8%から回答を得た。
- 2009-2010年の2年間の再発膠芽腫1387例を渉猟した。
- 1,185症例(85.4%)が初期治療においてTMZを用いていた。
  - 膠芽腫の初期治療においてはStupp regimenが浸透している。
- 再発時に薬物治療に至らなかった症例が459例33.1%あった。
- 再発時に薬物治療を行った症例の70.3%においてTMZ中心の治療が行われていた。
  - TMZを継続するしかないという現状が明確になった。
- その他の治療はいずれも10%以下で、多い順にWT1, Bevacizumab, ICEであった。